

FMC

# プルビゾン®フロアブル5で 重要害虫を



# 徹底予防!



浸透性と移行性\*に優れ、ドローンで散布できます!



高い効果を支える、  
優れた浸透性と移行性!



詳しくは中面で

※業内移行性や上方移行性 \*1 マメシクイガ写真提供:北海道病害虫防除提要より(鳥倉原図) \*2 アワノメイガ写真撮影地:長野県塩尻市

作物のすみずみまで有効成分が行きわたり、  
害虫の食入を防いで、徹底予防! 長い残効、優れた経済性。

60以上の幅広い  
登録作物!

隣接する  
作物への  
考慮がしやすく  
使いやすい



15以上の作物に「無人航空機による散布」登録!

ノズルの目づまりトラブルゼロ。ドローン散布に適したフロアブル製剤です。



# 作物のすみずみまで有効成分が行きわたり、害虫の食入を防いで、徹底予防！長い残効、優れた経済性。

**特長 1** ヨトウムシ、オオタバコガ、ナモグリバエ等、重要害虫への高い防除効果。

**特長 2** 作物体内、葉裏に隠れた害虫や、葉裏に産卵され、孵化した幼虫も防除できる、優れた浸透性と移行性。

**特長 3** すばやく摂食活動をストップ。長い残効と耐雨性で、しっかり作物を守る。

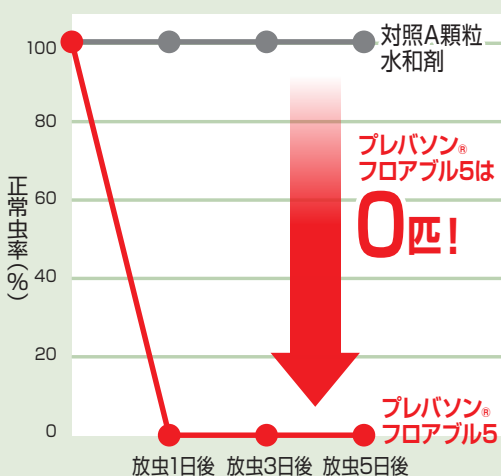


優れた浸透性と移行性  
薬液のかりかたりにくく葉裏や葉の間に潜む害虫の食害も、徹底予防！

## 優れた上方移行性！薬液が付着していない内葉にも、効果を発揮\*。

散布1日後/無散布部位(内葉)への効果

\*外葉に散布した薬液が葉面をしたり落ちた後、内葉の基部や根節から有効成分が吸収されていると推察



①外葉5枚を残して、内葉をビニールで覆い、所定濃度の薬液を散布  
②無散布部位(内葉)を切り取り、プラスチックカップに入れ、放虫

【試験概要】2022年北興化学工業(株) ◎試験場所:開発研究所内アクリルフィルム温室切り取り放虫後25℃恒温室 16L:8D ◎試験期間:2022年11月15日~11月24日 ◎供試作物:非結球レタス(品種:レッドウェーブ) ◎播種日:2022年9月22日薬液散布時 φ20cmプラスチックポット植え10~12葉期 ◎供試虫:オオタバコガ3齢幼虫 ◎区制:1区1カップ 3連制、1区5頭放虫 ◎供試薬剤:プレバソン®フロアブル5、対照A顆粒水和剤(共に2000倍希釈) ◎試験方法:①外葉5枚を残し、内葉にビニール袋を被せた非結球レタスに、所定濃度の薬液を100mL/3株ずつスプレーガンを用いて散布。②風乾後、ビニール袋を取り除き、アクリルフィルム温室内に置いた。③散布1日後に無処理部位(内葉)の葉各1枚ずつを切り、紙を敷いたプラスチックカップ(200mL)に入れた。④そのカップにオオタバコガの3齢幼虫を5頭ずつ放虫し、25℃恒温室内に置いた。⑤放虫1日後、3日後、5日後に正常虫を調査した。

## 高い葉内移行性！薬液が付着していない葉の先端にも高い効果を発揮。



薬剤名	倍率	死虫率(%)	平均食害率(%)
プレバソン®フロアブル5	2000	100	0.1
対照A顆粒水和剤	2000	59	1.8

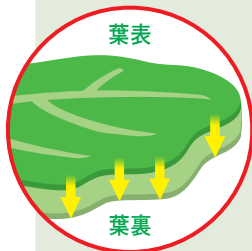
処理・放虫方法  
②処理7日後に葉を切除



①葉下半分表裏両面に薬液塗布  
③葉上半分表面に放虫

【試験概要】2022年丸和バイオケミカル(株) ◎供試作物:キャベツ(品種:金系201EX) 9cmポット育苗 ◎対象害虫:ハスモンヨトウ 2齢幼虫 住化テクノサービス(株) 個体群 ◎区制:8頭/区 4連制 ◎処理日:2022年10月27日 本葉5葉展開時 ◎放虫日:2022年11月3日 処理7日後放虫 ◎調査日:2022年11月6日 放虫3日後調査 ◎処理方法:下位4葉目のみ残り、筆を用いて葉下半分表裏両面に薬液(プレバソン®フロアブル5、対照A顆粒水和剤共に2000倍希釈。各剤にtween20 0.05%を添加)を十分量塗布。◎放虫方法:処理7日後に処理していない葉上半分を切除し、この表面に放虫。◎調査方法:放虫3日後に虫体の状態及び食害率を調査。死虫率及び平均食害率で評価。

## 優れた浸透性！薬液が付着していない葉裏にも高い効果を発揮。



薬剤名	苦悶死虫率(%)	食害度
プレバソン®フロアブル5	62.1	5.0
対照A顆粒水和剤	15.8	25.0

【試験概要】2022年日産化学(株) ◎作物:キャベツ ◎供試害虫:ハスモンヨトウ(生科研飼育感受性系統) ◎試験ステージ:1齢幼虫、処理日:2022年12月6日 ◎散布水量:2.5mL/葉葉表散布 ◎展着剤:アドミックス3000倍 ◎連制:1区3連制、10頭放虫 ◎調査:7日後切り取り放虫2日後調査及び食害調査 ◎試験方法:キャベツ葉表に直径7cmとなるように均一に薬液散布(プレバソン®フロアブル5、対照A顆粒水和剤共に2000倍希釈)、葉裏に放虫後、シャーレの蓋をしておもしをのせる。◎キャベツ葉:11/15播種、散布時7葉期(4葉目使用)

■適用害虫と使用方法 赤字:新たに適用拡大された項目

2026年5月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラトラニプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ、アオムシ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 カブラハバチ類	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の処理は 3回以内)
	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ、ウワバ類	500倍	苗地床1㎡当り2ℓ				
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバ類、オオタバコガ	2000倍 20倍	100~300ℓ/10a 1~2ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布 無人航空機 による散布	
はくさい	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	3回以内 無人航空機 による散布
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類、オオタバコガ	2000倍 20倍	100~300ℓ/10a 1~2ℓ/10a		3回以内	散布 無人航空機 による散布	
かぶ	コナガ			収穫前日 まで			3回以内
非結球あぶらな 科葉菜類 (タアサイ、非結球はくさい、 なばな類を除く)	コナガ ハモグリバエ類	2000倍	100~300ℓ/10a		2回以内	散布	2回以内
タアサイ	オオタバコガ	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回以内、 散布は2回以内)
非結球はくさい	ハスモンヨトウ コナガ、ハモグリバエ類	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日 まで	2回以内 3回以内	散布 無人航空機 による散布	
なばな類	アオムシ、ハスモンヨトウ コナガ、ハモグリバエ類	20倍	1~2ℓ/10a		3回以内	無人航空機 による散布	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
	アオムシ	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	
アマランサス(茎葉)	シロオビノメイガ	2000倍	100~300ℓ/10a		3回以内	散布 無人航空機 による散布	3回以内
だいこん	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ類	20倍	1~2ℓ/10a		1回	散布	1回
はつかだいこん	ハモグリバエ類	2000倍	100~300ℓ/10a				
にんじん	キアゲハ ハスモンヨトウ	20倍	1~2ℓ/10a	収穫前日 まで		無人航空機 による散布	2回以内
てんさい	ヨトウムシ シロオビノメイガ	4000~ 5000倍	100~300ℓ/10a		2回以内	散布	
		1000~ 1250倍 40~50倍	25ℓ/10a 1~2ℓ/10a			無人航空機 による散布	
カリフラワー	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ	2000倍 100倍	100~300ℓ/10a セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	3回以内 1回	散布 灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
ブロッコリー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	2000倍	100~300ℓ/10a		3回以内	散布 無人航空機 による散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の処理は 3回以内)
		20倍	1~2ℓ/10a	収穫前日 まで			
莖ブロッコリー	ハスモンヨトウ	2000倍 100倍	100~300ℓ/10a セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	3回以内 1回	散布 灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントリニプロールを含む農薬の総使用回数
パセリ	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	1回	散布	2回以内 (灌注は1回以内、 散布は1回以内)
らっきょう	ハモグリバエ類			収穫3日前まで	3回以内		3回以内
ねぎ	シロイチモジヨトウ ネギコガ、ハモグリバエ類	20倍	1~2ℓ/10a	育苗期後半 ~定植当日	1回	無人航空機 による散布	4回以内 (灌注は1回以内、 定植後の処理は 3回以内)
	ハモグリバエ類	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ			灌注	
豆類 (種実、ただし、だいず、 あずき、らっかせいを除く)	ハスモンヨトウ	4000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
だいず	ハスモンヨトウ マメシンクイガ ウコンノメイガ、オオタバコガ	16~ 32倍	0.8ℓ/10a			無人航空機 による散布	
あずき	ハスモンヨトウ アズキノメイガ	4000倍	100~300ℓ/10a			散布	
えだまめ	ハスモンヨトウ マメシンクイガ ウコンノメイガ、オオタバコガ	16~ 32倍	0.8ℓ/10a	収穫3日前 まで	3回以内	無人航空機 による散布	3回以内
未成熟そらまめ	ハモグリバエ類	1000~ 2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日 まで		散布	
さやいんげん 実えんどう さやえんどう	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	2000倍				無人航空機 による散布	
やまのいも	ハスモンヨトウ ナガイモコガ	20倍			1~2ℓ/10a	散布	
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ アリモドキゾウムシ ヒルガオハモグリガ イモゾウムシ	2000~ 4000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
		16倍	0.8~1.6ℓ/10a			無人航空機 による散布	
さといも しょうが	ハスモンヨトウ	2000倍	100~300ℓ/10a	2000倍	100~300ℓ/10a	散布	2回以内
		20倍	1~2ℓ/10a			無人航空機 による散布	
ほうれんそう	ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	2回以内
えごま(葉) ふき	ハスモンヨトウ			収穫120日前まで			
ふき(ふきのとう)							
クレソン(土耕栽培)	コナガ			収穫3日前まで	3回以内		3回以内
ごま	オオタバコガ			収穫14日前まで	2回以内		2回以内
飼料用とうもろこし	アワノメイガ ツマジロクサヨトウ	2000~ 4000倍	1~2ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	無人航空機 による散布	4回以内 (は種前の塗沫 処理は1回以内、 は種後は 3回以内)
	アワノメイガ ツマジロクサヨトウ オオタバコガ	16倍				散布	
	オオタバコガ	2000倍				100~300ℓ/10a	
とうもろこし	アワノメイガ オオタバコガ ツマジロクサヨトウ	2000倍	100~300ℓ/10a	2000倍	100~300ℓ/10a	散布	3回以内
		20倍	1~2ℓ/10a			無人航空機 による散布	
		16倍	1.6ℓ/10a			散布	
オクラ	オオタバコガ ハスモンヨトウ	2000倍	100~300ℓ/10a	2000倍	100~300ℓ/10a	散布	3回以内
		20倍	1~2ℓ/10a			無人航空機 による散布	
たばこ	ヨトウムシ	2000倍	100~180ℓ/10a	収穫10日前まで	2回以内	散布	2回以内
とうき	キアゲハ		100~300ℓ/10a	発生初期	4回以内		4回以内
はとむぎ	アワノメイガ	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントリプロールを含む農薬の総使用回数
レタス	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の処理は 3回以内)
	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ オオタバコガ、ハモグリバエ類	20倍	1～2ℓ/10a			無人航空機 による散布	
	ハモグリバエ類	1000～ 2000倍	100～300ℓ/10a			散布	
非結球レタス	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類 ネキリムシ類 ヒメフタテンヨコバイ	100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5～4ℓ) 当り0.5ℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	
	20倍	1～2ℓ/10a	無人航空機 による散布				
トマト	ハモグリバエ類	1000～ 2000倍	100～300ℓ/10a	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
	オオタバコガ、トマトキバガ	2000倍					
	トマトキバガ、ハモグリバエ類 コナジラミ類	100倍	1株当り25mℓ				
	ハモグリバエ類、コナジラミ類	200倍	1株当り50mℓ				
ミニトマト	トマトキバガ、ハモグリバエ類 コナジラミ類	100倍	1株当り25mℓ				4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
	ハモグリバエ類、コナジラミ類	200倍	1株当り50mℓ				
	ハモグリバエ類 オオタバコガ、トマトキバガ	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	
なす	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類、ネキリムシ類	100倍	1株当り25mℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は2回以内)
	ハモグリバエ類	200倍	1株当り50mℓ				
		1000～ 2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	
	2000倍						
とうがらし類	ハスモンヨトウ、オオタバコガ	1000～ 2000倍			3回以内		4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100倍	1株当り25mℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	
ピーマン	ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000～ 2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	3回以内 (灌注は1回以内、 散布は2回以内)
	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100倍	1株当り25mℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	
きゅうり		100～200倍					4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
	ハモグリバエ類	200倍	1株当り50mℓ				
		1000～ 2000倍					
	ウリノメイガ	2000倍					
ズッキーニ	ハモグリバエ類	1000倍					
メロン すいか	オオタバコガ ハモグリバエ類				3回以内		
とうがん にがうり 未成熟ささげ アスパラガス つるむらさき しそ科葉菜類 (えごま(葉)を除く)	ハスモンヨトウ	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日 まで		散布	3回以内
いちご モロヘイヤ エンサイ					2回以内		2回以内
せり科葉菜類 (パセリを除く)	ヨトウムシ			収穫7日前まで 但し、みづばの 伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	1回		1回

プレバソン®フロアブル5  
ユーザー証言!

静岡県浜松市

松井 鯉太郎さん

農学部の大学院を卒業後、新規就農して10年目。キャベツ10a、プチヴェール40aのほか花き(小菊)などを作付。2023年よりフィンガーライムを作付予定。

## キャベツの幅広いチョウ目害虫を長期間抑えてくれるので、経済的。浸透性と移行性の高さが、ありがたい。

薬剤がかかりにくい  
オオタバコガや重要害虫を、  
2週間以上抑えてくれるから、  
防除の回数が減って、  
コストパフォーマンスがいい

温暖な気候と全国トップクラスの日照時間など、豊かな環境に恵まれた静岡県浜松市では、ブランドばれいしょや高糖度のキャベツなどが生産されており、総農家数では全国1位を誇ります。

その浜松市でキャベツやプチヴェールを手がける、就農10年目の松井さんの圃場におじゃましました。

「キャベツ栽培での最大の課題は、チョウ目害虫の防除」とおっしゃる松井さん。4年前からプレバソン®フロアブル5を、生育期にローテーション散布の中で3回程度、使用されているのだそうです。

「まず驚いたのが効果の長さ。どこまで

効果が続くの?という感じでした。いつも3週間以上は確実に効いていますね」。

また、「オオタバコガやハイマダラノメイガなど、幅広いチョウ目害虫をばっちり抑えてくれますよね。オオタバコガは葉の中に潜り込んでしまいますが、プレバソン®フロアブル5はオオタバコガに直接かからなくてももしっかり効果がある。浸透性と移行性があると聞いたけど、まさにそれです」と松井さん。散布処理で9~10月に1回、11~12月に2回使用されるとのこと。「11~12月は、プチヴェールの収穫と重なるので、とにかく忙しい。この時期にプレバソン®フロアブル5を散布処理しておけば、しっかりキャベツを害虫から守ってくれるので、大助かりです」。

「長く効くから、全体の防除回数が減らせて、コストパフォーマンスがいい」とその経済性についても高く評価されていたそうです。

複雑な形のプチヴェール※に、  
プレバソン®フロアブル5の  
浸透性と移行性が、大助かり

松井さんが40a作付する、静岡県生まれの野菜“プチヴェール”は、糖度や栄養価が高く、その生産量においても同県が全国の9割以上を占めています。限られた面積でも、高い収益が得られる作物を就農当初から模索していた松井さんは、7年前にプチヴェールの作付を開始。「高品質



なプチヴェール栽培の秘訣は、やはり害虫防除とおっしゃいます。

「初期生育時にローテーションの中で、プレバソン®フロアブル5を2回散布しています。プチヴェールはすごく複雑な形をしているから、害虫に薬剤がかかりにくいけど、プレバソン®フロアブル5は、浸透性と移行性が高く残効も長いから、抜群の安定感がある」。

浜松市が推進する「もうかる農業」というビジョンをベースに、収益性を重視する松井さん。「2023年からはフィンガーライムの作付も始めるつもり。圃場全体でしっかりと収益を出していきたいですね」と未来を見据える経営者のまなざしが印象的でした。

※プチヴェール®:(株)増田採種場の登録商標です。プレバソン®フロアブル5では「非結球あぶらな科葉菜類」の登録内容で使用できます。

※コメントは取材当時の個人の感想です。本内容は2022年12月取材時のものです。

取材動画はこちらから▶



※抵抗性回避のため、系統の違う殺虫剤とのローテーション防除を徹底してください。※散布処理の際は、十分に薬液を作物に付着させるため、展着剤を加用してください。

●ラベルをよく読んでください。●記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。●空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調製に用いるなど、ほ場等で使用してください。●防除日誌を記帳しましょう。

©2026 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC, FMCG, ®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

MBC 丸和バイオケミカル株式会社

■本社  
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-19-23  
TEL.03-5296-2314 https://www.mbc-g.co.jp  
お問い合わせ窓口/TEL.03-5962-9731  
(9時~17時 土日祝を除く)

■札幌/TEL.011-222-1285  
■仙台/TEL.022-261-1103  
■名古屋/TEL.052-951-7234  
■大阪/TEL.06-6484-6850  
■福岡/TEL.092-714-7101

製品情報は  
こちらから▶

